

令和5年9月4日	
所 属	文化振興課
所属長	荏田 昭憲
電 話	06-6489-6385

第5回尼崎市文化未来奨励賞受賞記念展「声声が灯して：小出麻代」を開催します

1 趣旨

第5回尼崎市文化未来奨励賞受賞者の美術家・小出麻代さんによる受賞記念展「声声が灯して：小出麻代」を尼崎市総合文化センターで開催します。

本展は、小出さんにとって3回目の尼崎市での展覧会となります。本展に向け再びリサーチを行い、時代や環境の変化といった大きな流れの中で、変わることを受け入れながらも、何かを続け、残してきた人々の声に耳を傾けました。「人と人、人と土地が結びついていく、そのはじまりの場」であったともいえる旧結婚式場を会場に、新作インスタレーション作品で構成します。

また、本展に先立ち、展示の一部に組み込まれる協同制作ワークショップも行います。

2 記念展概要

会期：令和5年11月3日（金）～11月26日（日）の土日月及び祝日

時間：正午～午後5時（最終入場は午後4時30分）

場所：尼崎市総合文化センター9階

料金：無料

トークイベント：原久子氏（アートプロデューサー／大阪電気通信大学教授）を迎え、会場内にてクロージング・トーク

令和5年11月26日（日）午後3時～午後4時30分開催、

定員30名程度（申し込み不要、当日先着順）

3 協同制作ワークショップ「触覚アーカイブス」概要

日時：令和5年10月7日（土）①午前10時30分～午後0時30分、②午後2時～午後4時

場所：尼崎市総合文化センター9階

内容：旧結婚式場の壁や什器などをフロッタージュ（対象の形状を写し取る技法）

定員：各回8人（応募者多数の場合は抽選）

対象：小学4年生以上

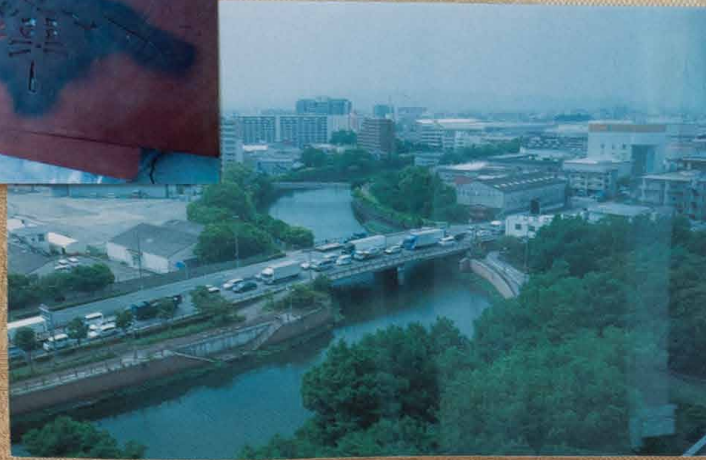
料金：無料

申込方法：令和5年9月4日（月）～9月20日（水）までにメールで文化振興財団まで
メール（bunka@archaic.or.jp）

※件名に『「触覚アーカイブス」申し込み』と記載の上、氏名、年齢（大人の方は年代で可）、電話番号、希望時間を記入

以 上

The polyphony of
our narratives
Koide Mayo



2023.11.3 (金・祝) — 26 (日) の土日月祝



12:00-17:00 (入場は16:30まで)
入場無料

声が灯して——小出麻代

第5回尼崎市文化未来奨励賞 受賞記念展

主催〓 尼崎市、(公財) 尼崎市文化振興財団
助成〓 公益財団法人野村財団
協力〓 Gallery PARC



会場〓 尼崎市総合文化センター 9階
〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通2-7-16
tel. 06-6487-0806 <https://www.archaic.or.jp/>

お問い合わせ
尼崎市総合文化センター文化課美術担当
tel. 06-6487-0806
(9:00-17:30 火曜臨時休館あり)
mail. bunka@archaic.or.jp

NOMURA 野村財団



声が灯して——小出麻代

The polyphony of our narratives: Koide Mayo

2023年11月3日(金・祝)——26日(日)の土日祝

会場 尼崎市総合文化センター 9階

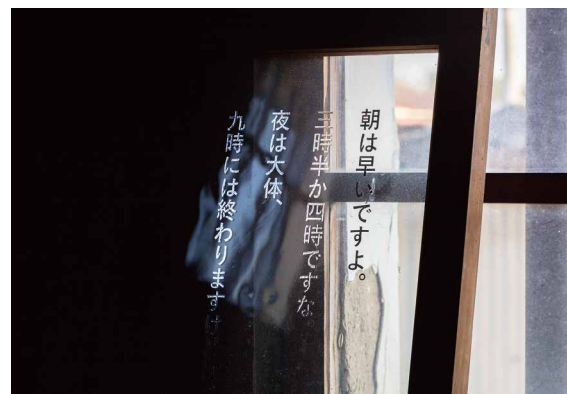
12時～17時(入場は16時30分まで) 入場無料

「月に日に」展示風景(VOU、京都、2021) 写真：松見拓也



小出麻代は、物や場所、時間や環境が人間のところにどう作用し、そこにどのような関係性が生成されていくのかに関心を持ち、これまでに様々な土地に赴き、制作を続けてきました。そこで拾遺した言葉やオブジェクト、写真・映像・光や影などを用いた多層的なインスタレーション作品は、物や場所が持つ記憶や歴史の断片を照らすとともに、鑑賞者自身の記憶や感覚をも揺さぶり、それぞれがゆるやかに対流する場を創り出します。

第5回尼崎市文化未来奨励賞の受賞記念展となる本展「声が灯して：The polyphony of our narratives」は、小出にとって3度目の尼崎市での展覧会となります。本展に向け再びリサーチを行なった小出は、時代や環境の変化といった大きな流れの中で、変わることを受け入れながらも、何かを続け、残してきた人々の声に耳を傾けました。本展は「人と人、人と土地が結びついていく、そのはじまりの場」であったともいえる旧結婚式場を会場に、新作インスタレーション作品で構成されます。声が灯す先にあるものをみつめながらも、それらは鑑賞者自身をも照射し、それぞれの内に何らかの像を結ばせるものとなるのではないのでしょうか。



「形代—かたらし」展示風景(オーエヤマ・アートサイト、京都、2020)
写真：麦生田兵吾

小出麻代(こいで・まよ)

1983年大阪府生まれ。2009年京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程版画分野修了。物あるいは場所／環境と人間の心性との関わりについて関心を寄せ、言葉・オブジェクト・写真・映像・現象などを多層的に組み合わせたインスタレーション作品を制作する。近年の展示に、「月に日に」(VOU、京都、2021)、「形代—かたらし」(オーエヤマ・アートサイト、京都、2020)、「生業・ふるまい・チューニング小出麻代—越野潤」(京都芸術センター、2018)、「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2015 枯木又プロジェクト」(旧中条小学校枯木又分校、新潟)など。アーティスト・イン・レジデンスに「END OF SUMMER 2018」(ポートランド、アメリカ)など。



《むこう側から》展示風景(京都芸術センター、2018) 写真：表恒匡

関連イベント

*会場はすべて尼崎市総合文化センター 9階

1. 協同制作ワークショップ「触覚アーカイブス」

展覧会へ向けての制作に参加しませんか? 本展展示会場となる旧結婚式場の壁や什器などを目と手で観察しながら、フロッタージュで紙に写し取ります。それらは場の記録として展覧会の一部に組み込まれます。

日時：2023年10月7日(土) ①10:30-12:30 ②14:00-16:00

定員：各回8名(要事前申込)／対象：小学4年生以上

参加申込：メールにて受付。件名を「『触覚アーカイブス』申込」とし、①参加者氏名 ②年齢(大人の方は年代で可) ③連絡のつく電話番号 ④希望時間を記載の上、bunka@archaic.or.jpまで
募集期間：2023年9月4日(月)～20日(水) ※応募者多数の場合は抽選

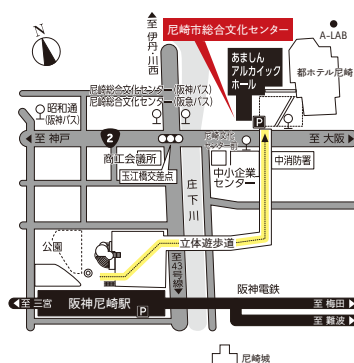
2. クロージング・トーク「小出麻代×原久子」

聞き手に原久子氏(アートプロデューサー／大阪電気通信大学教授)を迎え、小出麻代から展示作品やリサーチについてのお話を伺います。

日時：2023年11月26日(日) 15:00-16:30

定員：30名程度(申込み不要・先着順受付)

【アクセス】●阪神尼崎駅より：立体遊歩道で徒歩約5分(国道2号線沿い) ●JR尼崎駅より：阪神バス(尼崎市内線)南側4番のりば23系統(阪神尼崎行き)→「尼崎総合文化センター」下車すぐ ●阪急塚口駅より：阪神バス(尼崎市内線)13系統→「昭和通」下車徒歩約5分／「阪急バス」57系統→「尼崎総合文化センター」下車すぐ ※有料駐車場あり(30分200円／1日最大1,000円・普通車)



<https://www.archaic.or.jp/>